

デザインの現場

vol.22 no.143

2005

10

Oct.

DESIGNERS' WORKSHOP

特集 本の魅力を引き出す

ブックデザイン

祖父江慎／松田行正／町口覚／尾原史和

編集部が薦めるジャンル別ブックデザイン・ガイド
書店・取次が語る「いい本のデザイン、わるい本のデザイン」
早わかり! 本づくりのお値段
ベストセラーの用紙&本文組大公開!

特別記事 佐藤雅彦研究室展リポート

福井市おいしいキッチンプロジェクト

バウハウスのマイスターハウス

デザイナーからのグッズ提案「COLOR OF TEN」展

追悼 黒川勉

100

美術出版社創業100年

次号2005年11月28日発売
<http://www.bijutsu.co.jp/bss/>

山や木などをモチーフに、ランドスケープを彷彿させるデザインのタオルハンガー「LANDSCAPE」2100円。タマネギやニンニクなど、常温保存が利く野菜はカラフルなレース製のネットに入れて、つるして飾りたい。「VEGI-NET」700～1050円。左ページのロゴマークは、日本デザインセンターのグラフィックデザイナー程繁によるもの

越前ガニやへしこなど、食通をうならせるおいしい特産物満載の福井で“デザインをより身近に感じられる”プロダクトが生まれた。カッコいいだけでなくちょっとした会話やほほ笑みのもとになるような楽しいキッチングッズたちの登場だ。

おいしく食べるためのデザイン

福井が発信するデザインの標準化

取材・文／編集部
TEXT by DESIGNERS' WORKSHOP
写真／桜井ただひさ
PHOTOGRAPHS by TADAHISA SAKURAI
協力／フリックススタジオ
COOPERATION by FLICK STUDIO



おいしいキッチン



住みやすさの指標となる生活満足度調査
(東洋経済新報社調べ「都市データバック」2002、2003年度)で2年連続首位に選ばれた福井市が、そのもっとも主たる特徴の「食」に「地場産業活性」と「デザイン」という新しい軸を加え、おいしく食事をするためのデザインプロジェクト「おいしいキッチン」をこの秋に立ち上げる。

「『地域産業創造会議』が2003年に開催した一般公募の中に『デザインまな板』という提案がありました。審査員だった私の下に、その後、これをつくりたいという相談が来たのですが、まな板だけつくってもあまり意味がない。世界観を広げるようなことができないか、と思いついて……」。と語るのは、本件プロデューサーの紫牟田伸子。もっと大きな流れを生み出したいと思った彼女は、デザイナーであり、数々のデザインプロジェクトのディレクションを行う酒井俊彦に相談を持ちかけた。

「『おいしいカニ食べませんか?』っていう誘いに乗っちゃってね(笑)。でも実際のところ、キッチンを取り巻く環境は、昔に比べれば随分よい状態になっている。デザイン誌やインテリア誌でも、キッチンはす

ごく大切に扱われているし、みんなが集ま
るべき場所によくようになってきたのかな。
だから、一連のキッチンプロダクトに発展
させてみることを考えたんです」。

おいしい食材が豊富にあつて、生活満足
度の高い町、福井なら、おいしいものをお
いしく食べるヒントもあるかも。そう思っ
た二人は、福井市地域産業創造会議の力を
借りて、福井市の家庭50件あまりの台所風
景を写真に収め、家族構成などの情報を含
めリサーチを行った。しかし、その結果と
してあらわになったのは、一般家庭の台所
はそれほど「スタイリッシュ」ではないと
いう事実。キッチン周辺は、さまざまな生
活用品であふれ返り、アイデア商品的グ
ッズによってちよつとした機能性が工夫さ
れているくらいというのが現状なのだ。

「工夫は認めるけど、それだけでは『おい
しい感じ』はしない。デザインはもつと感
情に訴えかける行為。だからこそ、まだや
るべきことが残っているんじゃないかとい
うことに気づいた」(酒井)。

デザインは、なにも高級に美しく仕立て
ることだけがその役割ではない。おいしい
キッチンプロジェクトが求めたのは、リサ

ーチ結果で明らかになったキッチンの現実
的な問題を打破すること。つまり、「普通
の人」がおいしくご飯を食べられる空間を
演出するアイテムを提案することであり、
決してデザイン専門家の自己満足に終わら
ない内容にする必要があつた。

「ましてや、デザイナーやメーカーが補助
金を使って好き放題やつている地場産業プ
ロジェクトにはしたくない。実際に売れる
ものにならなくては意味がない」(酒井)。

ここで紹介している商品の値段を見れば
分かると思うが、一連の地場産業活性関連
のデザインプロジェクトと比較しても、最
終形商品の価格帯がかなり抑えられている
ように見受けられる。

こうして勢ぞろいした「おいしいキッ
チンのアイテムたち。格好よく、高機能な
デザイングッズの多くが、いかつい表情を
した高級品」であるのに対し、福井市のプ
ロジェクトから生まれたモノたちには、や
さしい表情が目立つ。消費者が手に取りや
すいしつらいに加え、良心的な価格設定を
考えるということは、ある種のプロジェ
クト自体が「デザインの標準化」に成功し
たといってもよいだろう。

●おいしいキッチン展示会

おいしいキッチンのプロダクトが初目見え。
展示会に合わせコンセプトブック「『おいし
いキッチン』はじめました」(ラトルズ刊、
予価1600円)も出版予定。
会期=2005年10月6日~10日
会場=ふくい青山291 港区南青山5-4-41
TEL.03-5778-0291
www.o-kitchen.com TEL.03-3567-3527
(日本デザインセンター 担当:紫牟田)



さかいとしひこ
1964年高知県生。87年
東京造形大学デザイン学
部卒業。コーゾーデザイ
ンスタジオを経て、92年
サカイデザインアソシエ
イトを設立。
www.sakaidesign.com



しむたのぶこ
美術出版社を経て、現在日
本デザインセンタープロデ
ュース室チーフ・プロデ
ューサー。「モノとコト」の
編集デザインを軸に、商品
プランニングから広報プロ
デュースまでを手がける



五十嵐久枝



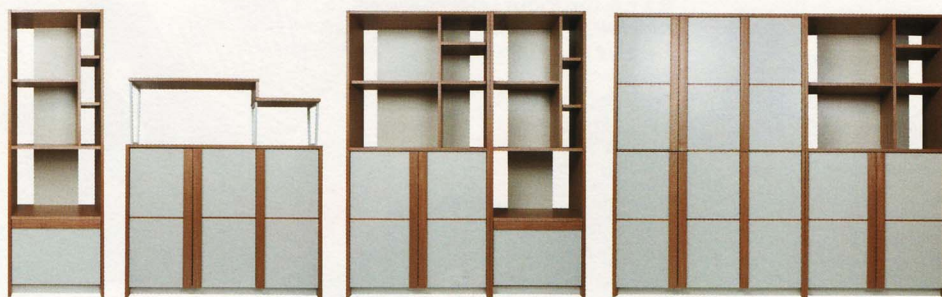
福地

五十嵐と家具メーカーの福地が求めたのは、雑多になりがちな台所を、簡単に片付けられる「収納のしやすい家具」だった。天板を二重にし、新聞や領収書など、食卓に残りがちな雑品を素早く収納するスペースを設けた。一方、収納家具は扉を不透明にすることで、あえて内容物を見せないようにした。扉のない棚には、最近増加傾向にあるキッチン家電を収納。

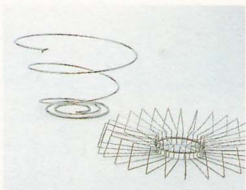


天板には直線面と曲線面があるので、壁付にしても、空間の中央に置いても絵になる。ラウンドテーブル1800R。8万2000円。スツール17800円（背付もあり）

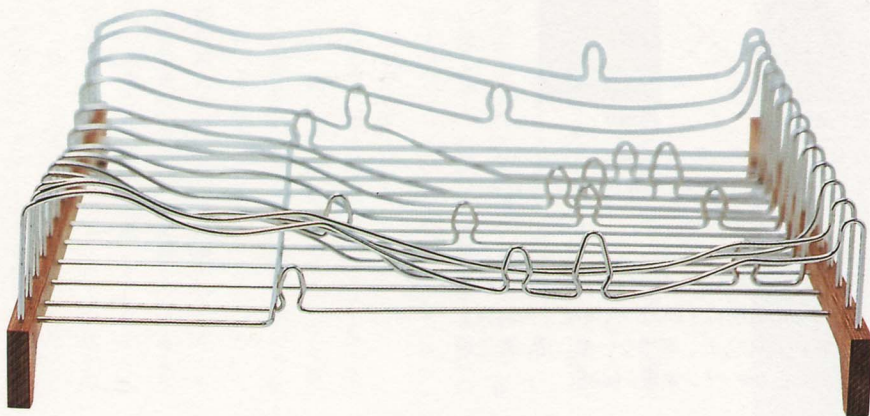
furniture



台所のサイズや収納品の量によってさまざまなシステムが選べるように、モジュール化された収納家具。幅は600、900、1210mmの3サイズ。9500円～



【右】連なる山脈のような水切りラック「LANDSCAPE」1万5800円。【上】スナックボウル「trick or treat!」(左) 3000円とフルーツボウル「SPIN!」(右) 4500円。【下】チョウチョウ型のステンレス板を曲げるとモノが挟めるキッチンクリップ「Butterfly」(4個1組 1050円。販売はクリアのみ)



flask



山内スプリング製作所

Spring

3Dでワイヤーを自由に形状加工する「CNCワイヤーフォーミング」という機械を有する山内スプリング製作所と、その技術力に「ワクワクし、面白いくらいにアイデアが出た」と語るflaskは、スプリングの伸縮性を活かした面白プロダクトを発表。らせんに限らず、一筆書き方式でさまざまな形にスプリングを曲げ、動きのあるエンターテインメント性も加味した。



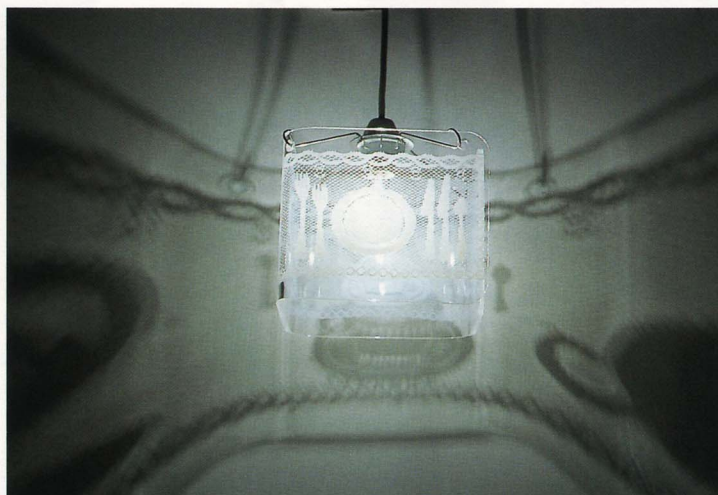
Goma



荒川レース工業

“昭和時代のテーブルクロス”の代表選手であるレースに、食に関する独創的なクリエイションを行うGomaがチャレンジ。「えっ！これがレース？」と疑ってしまうような、陽気なアイテムへと変貌した。Gomaがもっとも注意したのは、女性的なかわいらしいレースの魅力に、普段使いできるような機能性やデザインの意外性を加味すること。その真剣な態度には、ディレクターの酒井も舌を巻くほど。

Lace



アクリルやビニールに挟み込むことでレースの意外な表情が生まれた「DELICIOUS LAMP」1万2600円 (上) と「DOT SHOPPING BAG」2900円 (右)、レースの独自のかわいらしさを引き出した「ポットウォーマー」3200円 (下)





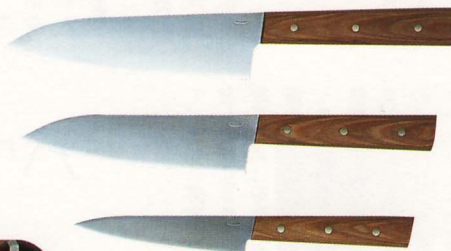
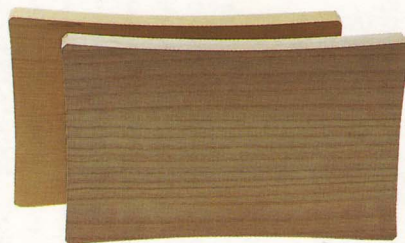
廣田尚子



高村刃物製作所

越前打刃物の伝統手法を追求するメーカーと経験豊富なプロダクトデザイナーによる協働で、シンプルながらも新しいスタイルの三徳包丁が生まれた。包丁のみね(刃の背に当たる部分)の無意味な角をなくし、スムーズな曲線でやさしい表情を持たせる一方、柄に樹脂を含浸(がんしん/木材の小さな巣穴に薬剤を埋め込み塞ぐ技術)した合板を用い、腐食しにくいように加工している。

Knife



[右中] 包丁は大6300円、中5250円、小4200円の3タイプ。[右上] 福地 (P.77) の協力で生まれた、自立な板。側面をアール加工したことで置いたときの接合面を減らし、衛生面に配慮した。ヒバ材6000円～、キリ材3000円～



wool.cube.wool!



ネオテックス

ハンドメイドテイストのファッション雑貨を得意とするwool.cube.wool!は、吸水性の高いタオルや速乾性のふきんなどの高機能繊維メーカーネオテックスと組み、愛らしいデザインを発表。市場では無意味にポップでカラブ

ルなキッチンタオルが多くみられるが、彼らは素材に既存のものを用いながら、動物のモチーフや凹凸のあるワッフル織りなどを取り入れることで、ケミカル素材でも“やわらかいテイスト”を表現できることを実証した。



[上] 高吸水性のタオルを身ごろに付けたエプロン。1万2000円。[左]170×700mm (ハンドタオル)、320×320mm (台ふきん)、420×620mm (食器拭き) などサイズもさまざま。1080～2100円

Towel

